

MC



短 辺……………28

シャッター

セイコーシャMXL

B・1・2・5・10・25・50・100・250・500
MF Xのシンクロ切替レバーの
操作により各種フラッシュバル
ブおよびストロボに対すべて
のシャッター速度で同調撮影が
できます。

画期的な距離計 ファインダー

使いよい等倍率ファインダーで
フレーム採光窓が設けてあるの
で撮影画面は見易いブライツフ
レームで明確に区切られて見え
しかもパララックス完全自動修
正装置を内蔵した画期的な一眼
二重像合致式連動距離計ファ
インダー光学系はプリズムプロ
ック構成のため堅牢高精度。

操作しやすい ライトバリュ システム

ライトバリュ目盛・シャッタ
ー速度目盛・絞り目盛すべて上
部表示になっており見やすく操

作しやすい。

フロント式セル フッキングレ バー

使いやすい大型フロント式セル
フッキングレバーは2操作に
よりフィルムの巻上げとシャッ
ターチャージができます。

二重露出完全防止。

オートマチック フィルムカウ ンター

裏蓋を開くと自動的にスタート
マークに戻り撮影は自動的に表
示される1より始められます。

巻戻しボタンの 自動解除

フィルム巻戻しに際し巻戻しボ
タンは一度押すだけで巻戻しが
できセルフフッキングレバーを
チャージすることにより巻戻し
ボタンは元に戻ります。

堅牢なスピード リワインダー

撮影済みのフィルムは堅牢で使
いよい巻戻しクランクにより迅
速に巻戻しができます。

セルフタイマ ビルトイン

セルフタイマーレバーをチャ
ージしてリリースを押せば約10秒
後にシャッターがきれれます。

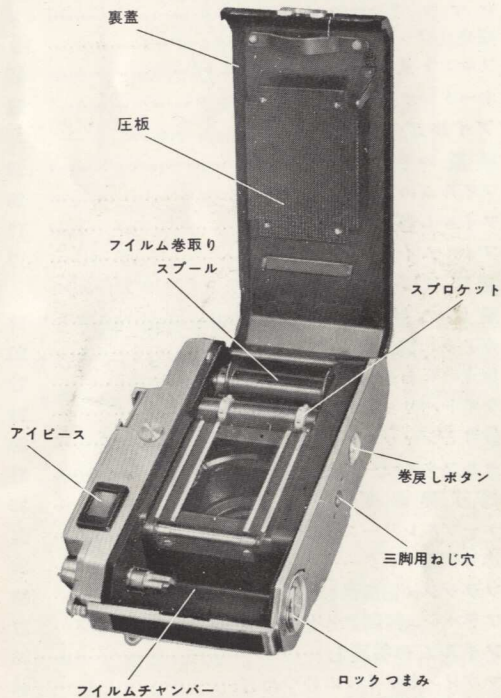
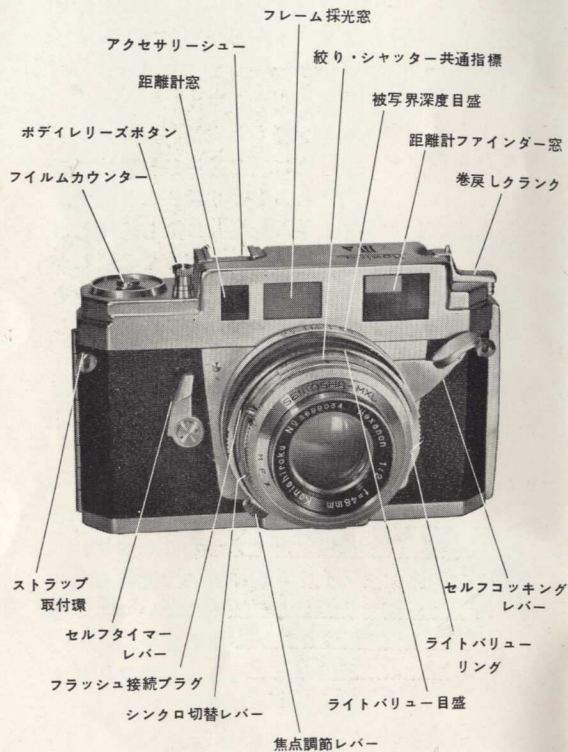
専用マガジン 使用可能

フィルムが経済的で光線もれス
リ傷などの故障のないコニカ専
用マガジンが使えます。

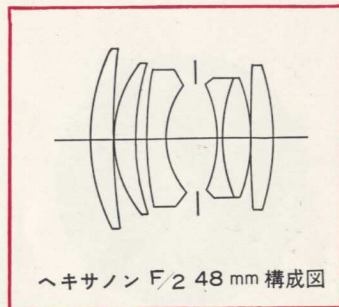
フィルタ ー カメラの大きさ カメラの重量

35.5mmねじ込み式専用フィルタ
ー
37mmかぶせ式専用フード
133×81×65mm
800g

各部の名称



コニカⅢA	
各部の名称	4
レンズ	7
シャッター	8
採光式ブライトフレームファインダー	9
フロント式セルフコッキングレバー	10
オートマチックフィルムカウンター	11
フィルムの入れ方	
裏蓋の開閉	12
フィルムの入れ方	13
フィルム巻上げの良否	17
フィルムインジケーター	17
撮 影	
撮影の順序	18
カメラの構え方	20
焦点の合わせ方とファインダーの見方	22
ライトバリュウの調節	24
絞りとシャッター-旧来の使い方	30
セルフタイマーの使い方	31
被写界深度	32
ケーブルリリースの使い方	34
赤外補正マーク	34
フラッシュ同調撮影	35
フラッシュ同調テスト	37
フィルムの巻戻し	38
マガジンとフィルムのつめ方	40
カメラの手入れ	42
被写界深度表	43



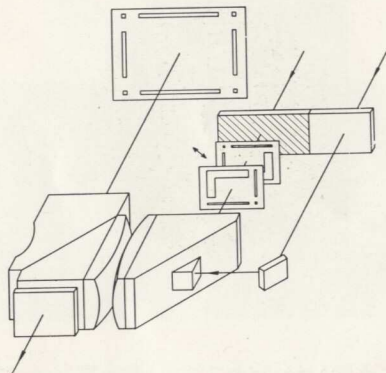
レンズはカメラの生命です。コニカⅢAには小西六が独得の設計を誇るヘキサノン F/2 48mmが付いています。5群6枚よりなる構成で諸収差はきわめて少なく、中心部はもちろん周辺部においても非常にすぐれた描写力をもち、画像のきりこみがよいので明快な写真を得ることができます。そしてヘキサノン F/2 48mmレンズには改良アンバーコーテッドがほどこしてあります。改良アンバーコーテッドにより、レンズ構成全体を通してフィルムに到達する光は完全な自然光となるので、カラー写真においては正しい色彩が美しく再現され、白黒フィルムの場合には黄・赤・緑などの各種フィルターの効果をよりいっそう発揮します。

シャッター



コニカⅢAに装備されているセイコーシャMXLシャッターはB・1・ $\frac{1}{2}$ ・ $\frac{1}{4}$ ・ $\frac{1}{8}$ ・ $\frac{1}{10}$ ・ $\frac{1}{25}$ ・ $\frac{1}{50}$ ・ $\frac{1}{100}$ ・ $\frac{1}{250}$ ・ $\frac{1}{500}$ 秒の各速度を有し、ライトバリュー(光値数)システムになっておりますから、撮影にあたって適正なライトバリューを指標にセットすれば、幾とおりものシャッター速度と絞りの組合せが自動的に得られます。フラッシュ同調装置はM・F・Xの接点があるので、この切替えによりM級・F級のフラッシュバルブおよびストロボ(閃光放電管)でも最高速度の $\frac{1}{500}$ 秒まで全秒時の完全同調が可能です。そのシンクロ効果はきわめて優秀であり、フラッシュバルブの光量を最も有効に活用できます。

採光式ブライトフレーム ファインダー



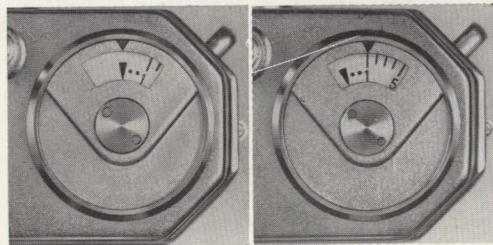
ファインダーは等倍率であり、二重像合致式連動距離計を組込んだ一眼式で、フレーム採光窓が設けてあるため見易いブライトフレーム(光像枠)によって撮影画面を明確に示し、パララックス完全自動修正装置を内蔵した画期的な距離計ファインダーです。光学系はプリズムブロックで構成されているため堅牢高精度であり、距離計の半透明鏡には特許(第184797号)による五層膜の補色距離計を使用しております。これは光の干渉による増透、増反射を応用したもので二重像は非常に明るく、黄色と紫色の完全な補色に見えるので、二重像のズレが明確であり、合致したときは自然光となるので判定がきわめて正確容易であります。

フロント式セルフコッキングレバー



コニカⅢAは独特のフロント式大型レバーでフィルムを巻上げ、同時にシャッターチャージを行うセルフコッキング式で、縦横いずれの撮影にも姿勢をくずさずに連続速写ができます。レバーは2回押し下げるとフィルムが1枚分送られ、同時にシャッターがチャージされます。作動する角度は44度で、1回目でフィルム半分が送られシャッターがチャージされ、2回目で残りのフィルムが送られレリーズボタンも解除され、そしてフィルムカウンターが1目盛動くようになっています。この2操作が完了しないとシャッターをきるできませんから、完全に二重露出が防止されます。

オートマチックフィルムカウンター

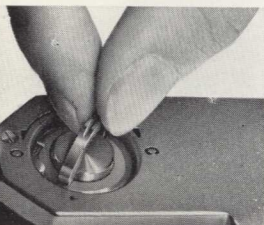


カメラの裏蓋を開くことによってフィルムカウンターは自動的にスタートマークに戻ります。カメラの裏蓋を閉じ、セルフコッキングレバーをチャージすることによってフィルムカウンターは動き出しますから、撮影は自動的に表示される1より始めればよいことになります。そのためフィルムを装てんしてから、枚数目盛を調整する必要はなく、常に正確な撮影枚数を示します。

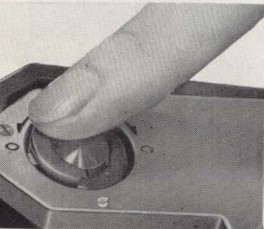
フィルムカウンターは36の目盛でフリーになり、それ以上はフィルムが巻上げられても進みません。

フィルムの入れ方

裏蓋の開閉



ロックつまみを起し
回転して矢印を0に合わせ



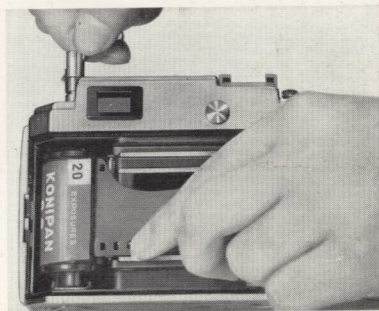
その方向に倒して指先で押
すとカメラの裏蓋は軽くと
びだします。

裏蓋を閉じるにはロックつまみを開いたときと
同じ位置にしたままで裏蓋を押して閉じ、ロック
つまみを起し、前と逆の方向に回転して矢印をC
に合わせてからその方向に倒しておきます。

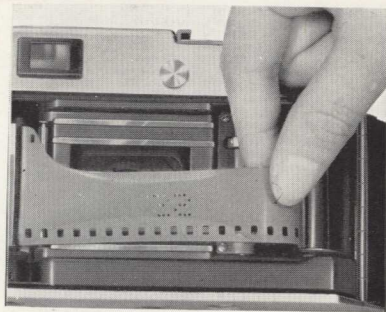
裏蓋は必ずロックつまみの矢印を0の位置にし
て閉じ、裏蓋を閉じてしまったらロックつまみの
矢印をCの位置まで回してください。

フィルムの入れ方

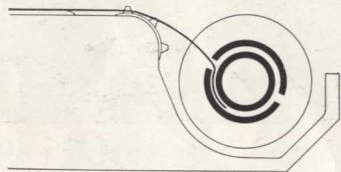
- * フィルムを入れるときは必ず日陰を選んでく
ださい。日陰のない場所では自分の身体の陰を利用
するのも一つの方法です。
- * 操作中レンズに指先を触れて指紋などつけれ
ぬようレンズキャップをつけておいてください。
- * このフィルムの入れ方は、さくらフィルムの特
フレームナンバーが、各画面のほぼ中央に位置す
る手順ですから、セルフコッキングレバーをチャ
ージした状態にしておいてください。



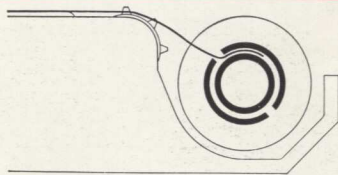
- 1 裏蓋を開き、巻戻レクラックをじゅうぶん外
方に引きだしてから、マガジン（パトローネ）の
頭部をカメラの底部の方に向けフィルムチャンバ
ーに正しく落し込み、巻戻レクラックを元の位置
まで押し込みます。



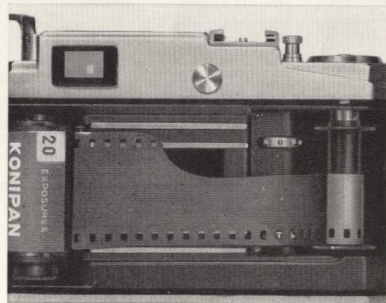
- 2 フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさし込み、ボディリリースボタンを押し



フィルムの先端を、図示の方向にさし込んでおけば、巻戻し完了の際、フィルムが巻取りスプールから軽くはずれます。一般にはこの方向にフィルムの先端をさし込むよう、おすすめします。



フィルムの先端を、図示の方向にさし込むと、巻戻し完了の際、フィルムが停止して、巻取りスプールからはずれませんから、無理に巻戻しクランクを回さないで、裏蓋を開いて、指先でフィルムの先端をはずしてください。



- 3 パーフォレーション（フィルムの穴）をスプロケットの歯に合わせながら、セルフッキングレバーを静かに2回押し下げてフィルムをスプールに確実に巻きつけます。



- 4 次に裏蓋を閉じ、ボディリリースボタンを押します。

- 5 フィルムを巻上げボディリリースボタンを押す操作を2回繰返すと、フィルムカウンターは1の手前の黒ボチを指しております。

以上で撮影の準備ができました。

フィルム巻上げの良否

フィルムを入れ終って裏蓋を閉じてから巻戻しクラックを静かに矢印の方向に巻き、フィルムのゆるみをなくしておきます。フィルムが正しく巻上げられていると巻戻しクラックの軸が回ります。これによってフィルムが正しく巻上げられているか否かがわかりますから、フィルム巻上げのときは常に注意してください。



フィルムインジケータ

カメラの革ケースの裏面にフィルムインジケータが取付けられています。カメラに入れてあるフィルムの種類にしたがって、これらの文字を指標に合わせて使用にまちがいのないために利用します。

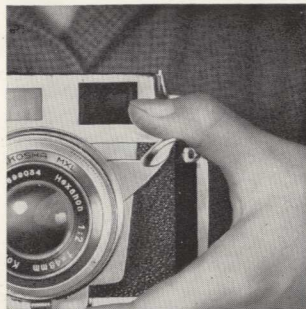


撮影の順序

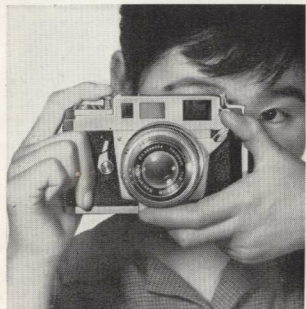
- 1 レンズキャップ
を取る

- 2 ライトバリュー
(光値数)を決
める

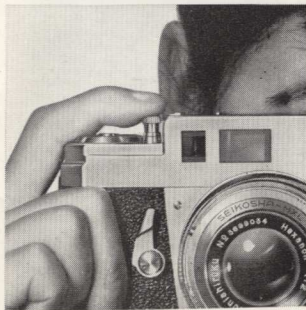
- 3 被写体に応じ、
シャッター速度
と絞りの適正な
組合せを選ぶ



- 4 セルフコッキン
グレバーを2回
チャージする



- 5 焦点を合わせ
構図を決める



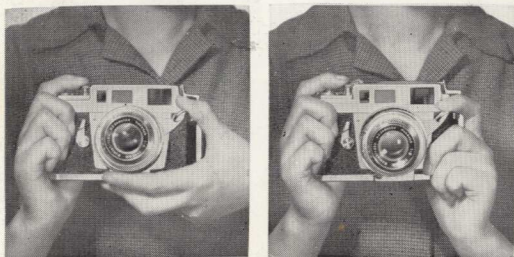
- 6 ボディレリーズ
ボタンを押す

カメラの構え方

鮮鋭な写真を得るためには、シャッターをきる際カメラぶれを起さぬような保持法をとることがたいせつです。普通、横位置で撮影するときは、左手でセルフコッキングの操作と焦点調節を行い右手でボディリリースボタンを押すように構えます。そしてボディリリースボタンを押す指先には、強い力を入れないで呼吸を止めて静かに押してください。

コニカⅢAは独特の設計をもっていますので、横位置でも縦位置でも楽に連続撮影ができます。

なお、 $\frac{1}{60}$ 秒以下の緩速度シャッター使用のときは、カメラぶれ防止のため三脚などにカメラを固定し、ケーブルリリースを用いて撮影するようにしてください。

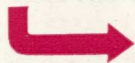


セルフコッキングレバーは親指でも
人さし指でも使いよい

このような構え方
ならば両眼をあけて
撮影ができます。



右の構え方もカメラ
の安定度はよい。



焦点の合わせ方と ファインダーの見方

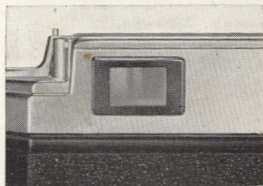
焦点を合わせるには
ファインダーをのぞきながら
焦点調節レバーを動かす。



焦点が合った
とき。



焦点が合わない
とき。



焦点を合わせるには ファインダーをのぞきながら焦点調節レバーを動かすと、ファインダー中央部に見える被写体の二重像の一方の像が動きます。この二重像が完全に合致したときが焦点の合ったときで、レンズの焦点は正確に被写体に合っております。

採光式ブライトフレームファインダーですから視野の中に明るく見えるフレームによって撮影画面が区切られて見え、眼の位置による誤差がないため撮影画面を正確に決定することができます。またファインダーは等倍率ですから両眼をあけて撮影することができるので、動物撮影などには特に便利です。

パララックスは完全自動修正

ファインダーをのぞきながら焦点調節レバーを動かすと、近距離になるにしたがってブライトフレームが、小さくなりながらレンズの光軸方向に移動するのが見られます。これはパララックス自動修正装置の働きによるもので、単にフレームがそのまま動くだけでなく近距離における画角の違い（近距離になるにしたがってレンズが前進するため画面角度が狭くなる）まで自動的に修正が行われる画期的なファインダーで、各距離においてファインダー視野と撮影画面は常に一致しております。

ライトバリューの調節



ライトバリューとは

コニカⅢAを上部から見ると、前面からシャッター速度ダイヤル・絞りリング・ライトバリューリングと露出に関係ある三つのリングがあります。

シャッター速度はB・1・2・5・10・25・50・100・250・500とあり、Bはバルブ露出(ボディレリーズボタンを押している間はシャッターが開いている)に使用し、B以外の速度目盛は瞬間露出の逆数を示してあります。つまり1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒、100は $\frac{1}{100}$ 秒を表わしています。

絞りはフィルム面に到達する光の量を調節しま

た被写界深度(被写界深度の項参照)を調節するものです。絞り目盛は1目盛絞るごとに明るさは半減する関係になっております。つまりF/2.8はF/2の半分の光量、F/4はF/2.8の半分の光量となります。

旧来の露出の決め方は絞りが幾つでシャッターが何分の一といった表わし方で、同一条件下で撮影中、絞りを変えたならば、それに応じたシャッター速度を目盛上で数えながら合わせ直すか、頭の中で換算しながら絞りと言シャッター速度の関係を決めていました。

F/5.6 - 1/100秒

F/8 - 1/50秒

F/11 - 1/25秒

上記の絞りと言シャッター速度の組合せの関係では、絞りは1段絞ると光量は半分になり、シャッター速度が半分になるため、三つのうちの組合せで撮影しても露光量は同じになります。

ライトバリューは光値数ともいい、絞りと言シャッター速度の二本建であった旧来の露出の決定を一つの数値で表わしたもので、被写体の明るさをフィルム感度に応じて、ある基準の数値で表わしたものをいいます。

調節のしかた

1 ライトバリュeringの両側にあるつまみを持って、ライトバリュeringを押し込みながら回して、適正なライトバリューをライトバリュering指標にセットします。この場合には絞り目盛は動かないでライトバリュー目盛とシャッター速度ダイヤルが、いっしょに動きます。

2 ライトバリューをセットすると、絞りとシャッターの組合せが幾とおりもできます。このうちのどの組合せを使っても同一露光量になります。

3 そのまま（ライトバリュeringを押し込まないで）ライトバリュeringを回すと、絞り目盛とシャッター速度目盛が動きますから、被写体の条件、つまり動きの速いものには速いシャッター速度に、反対に動きのない被写体で奥行のあるものを写すには、シャッター速度を遅い方にすれば、それに応じて絞りは自動的に小絞りになります。

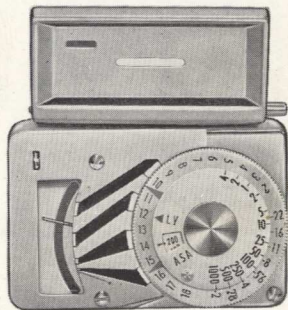
4 ライトバリュeringを回すとシャッター速度目盛の合ったところでクリックするようになっています。絞りは等間隔目盛で、シャッター速度は倍数速度になっていないため、絞り目盛の中間で止まることがあります。これはシャッター速度に比例した絞りの開度を保っているため、当然このようになります。

5 ライトバリュー調節のとき、絞り目盛の範囲またはシャッター速度目盛の範囲の外に回そうとすると停止します。このときにはライトバリュeringをそのまま反対方向に戻してからセットします。

6 シャッター速度の $\frac{1}{250}$ 秒と $\frac{1}{500}$ 秒のところは、構造上他の倍数速度の間隔の2倍になっています。そのため $\frac{1}{250}$ 秒から $\frac{1}{500}$ 秒に変えるときは、ライトバリュー目盛を1目盛多い方へずらしてから $\frac{1}{500}$ 秒にしてください。この修正を行わないと絞りが2段動くので、同一露光量を得ることができません。また $\frac{1}{500}$ 秒から $\frac{1}{250}$ 秒への変更のときは、ライトバリュー目盛を少ない方へ1段ずらして修正してください。

7 フィルム巻上げ後（セルフコッキングレバーチャージ後）のシャッター速度変更は差支えありませんが、 $\frac{1}{250}$ 秒から $\frac{1}{500}$ 秒への変換は機構に無理がかかりますから避けてください。

8 ライトバリューは1目盛ごとに倍の関係になっていますから、フィルターを付けたとき、その露出倍数が簡単に修正できます。つまり露出倍数2倍のフィルターのときは、ライトバリューを1目盛少ない方へずらし、1.5倍のフィルターならば半目盛少ない方へ、それぞれ、ずらせばよいことになります。

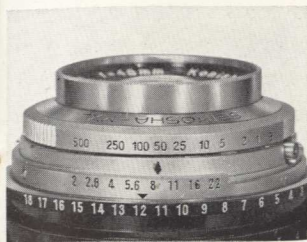


ライトバリュウを決めるにはライトバリュウ(LV)目盛のついた電気露出計を使うと便利です。フィルム感度を合せて、被写体のライトバリュウを読み、

ライトバリュウ12を例にすれば、下記のような絞りとシャッター速度が組合されます。そのうちのどの組合せを使っても、同一条件下ならば露光量は同じなので同一濃度のネガが得られることになります。

ライトバリュウ12の場合

絞　　り	4	6.4	9.1	12.8	20.2
シャッター速度	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{100}$	$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{25}$	$\frac{1}{10}$



その数値をカメラのライトバリュウ目盛にセットすれば、絞りとシャッター速度が幾とおりも組合されます。



動きの速い被写体には、ライトバリュウリングをそのまま(押し込まないで)回し速いシャッター速度に。



動きのない被写体で奥行のあるものを写すには、シャッター速度を遅い方にすると絞りはそれに応じて小絞りになる。

絞りとシャッター旧来の使い方

旧来の方法で絞りとシャッターを別々に合わせて使用したいときは、次の方法で操作してください。

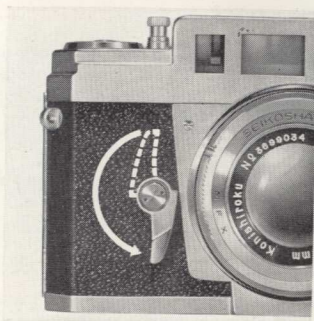
1 ライトバリュERINGをそのまま回すと、絞り目盛とシャッター速度が同時に動く構造ですから、ライトバリュERINGを回して絞りを先に指標に合わせ、それからライトバリュERINGを押し込みながら回してシャッター速度目盛を指標に合わせます。

2 特に絞り目盛だけを動かしたいときには、上部から見てライトバリュERINGの左側のつまみを押し込んでいけば、絞りリングだけ回すことができます。この方法は一定のシャッター速度で、絞りだけ変えながら撮影するときなどに用いられます。この操作に便なるよう絞りリングの下側にギザギザが付いています。



矢印のところを押し込んでいけば
絞りリングだけ回せる

セルフタイマーの使い方



セルフタイマーレバーを図のようにチャージし、ボディリリースボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、約10秒経過してシャッターがきれます。セルフタイマーのチャージはシャッターチャージの前後いずれでも差支えなく、約90°以上の位置ならば任意のところで使用でき、B以外の各速度で作動します。

セルフタイマーは、お家族そろっての記念撮影や、ハイキング、ご旅行の記録などで大いに活躍しますが、その他にも接写や顕微鏡撮影のように、シャッターをきる際のカメラぶれを極度に警戒しなければならないような場合にも使用して効果があります。

被 写 界 深 度

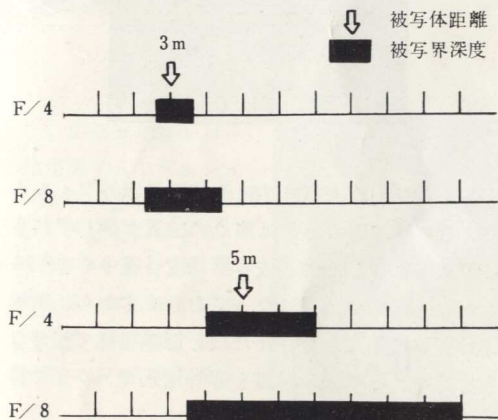
ある被写体に焦点を合わせたとき、その前後においても焦点の鮮鋭に写る範囲があります。この鮮鋭に写る範囲を被写界深度と称し、被写界深度は絞りと距離に関連しております。つまり一定の距離においては絞りを絞るほど被写界深度は深くなり、一定の絞りならば被写体までの距離が遠いほど被写界深度は深く、近距離においては浅くなります。また被写界深度は焦点を合わせた被写体の後方に深く前方に浅い性質をもっております。

被写界深度は被写界深度目盛によって知ることができます。距離指標を中心にして絞り目盛が両側に記してありますが、上側から見て左側は深度の遠い方の限界を、右側は近い方の限界を表わしております。

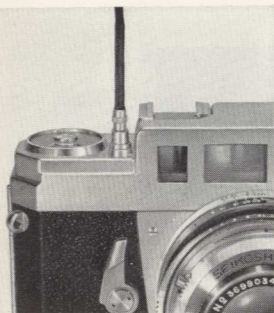
たとえば被写体までの距離が5メートルであったとすると、F/4 に絞った場合は4メートルから7メートルまでの間は鮮鋭に写り、絞りをF/8 にしたときは3.5メートルから11メートルまでが被写界深度に入ることがわかります。



被写界深度（焦点の鮮鋭に写る範囲）は被写体までの距離が遠いほど深く、絞りを小絞りにするほど深くなり、焦点を合わせた被写体の後方に深く前方に浅いものです。

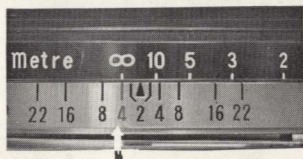


ケーブルリリースの使い方



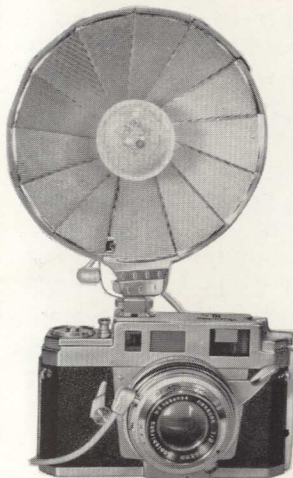
ケーブルリリースを使用するときは、ボディリリースボタンの頭部がねじ込みキャップになっておりますから、これをおらずし、ボタン内部のリリースねじにねじ込んで使用します。

赤外補正マーク



さくらフィルム赤外750その他の赤外フィルムによる赤外線撮影のときは焦点の位置が少しずれるので補正を要します。被写界深度目盛中の赤印の4が赤外補正マークになっておりますから、距離計で普通に焦点を合わせた後、距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外補正マークまで移動すれば正しい焦点が得られます。

フラッシュ同調撮影

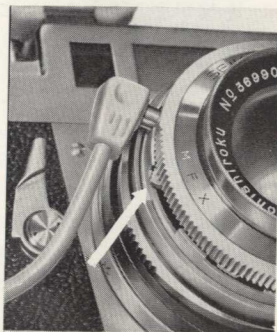


フラッシュ同調撮影を行うときには、フラッシュ接続プラグにフラッシュガンのコードを接続します。

フラッシュ接続プラグはB型（ドイツ式）です。

シンクロ切替レバーは使用するフラッシュバルブに応じて所要のマークに合わせます。

M級バルブ→M接点
F級バルブ→F接点
ストロボ→X接点



フラッシュ同調テスト

M接点の使用法

M接点はM級（タイムツーピーク20ミリセコンド内外）のフラッシュバルブを使用すると、シャッター速度は $\frac{1}{500}$ 秒までいずれの速度にも完全同調します。

F接点の使用法

F接点はF級のフラッシュバルブを使用し全速度の同調撮影が可能です。

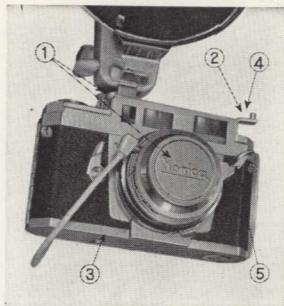
なおF級フラッシュバルブのタイムツーピークはJIS（日本工業規格）では10ミリセコンド以下となっておりますが、実際は5～10ミリセコンドの間にあります。したがって10ミリセコンドに近いF級フラッシュバルブでは $\frac{1}{100}$ 秒より遅い速度でご使用になるほうが安全です。

X接点の使用法

X接点はシャッターの羽根が全開したときシンクロの接点が閉じるのでストロボ（閃光放電管）を使用する場合に用います。X接点でフラッシュバルブを使用するときは $\frac{1}{250}$ 秒以下の緩速度ならば同調させることができます。

セイコーシャMXLシャッターは、M接点のときには同調ガバナーと同調レバーが動き、F接点では同調レバーのみが動き、X接点ではこの両者共に動かず休止する構造になっております。したがって切替レバーは同調撮影をしないときはXにセットしておくのがシャッターの保護のためにもなります。

コニカⅢAは完全な二重露出防止機構になっていますが、次の方法によればフィルムは進まず元の位置で止まるので、フィルムをむだにしないで何回でもシャ



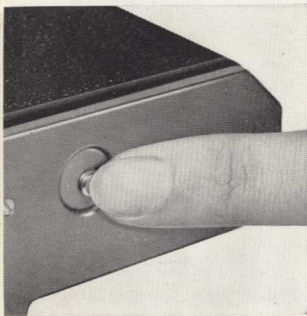
ッターがぎれますから、フラッシュの同調テストを行うことができます。

- 1 レンズキャップを付けシャッターをきると一回テストができます。
- 2 巻戻レクラックを起して矢印の方向に巻きフィルムのゆるみをなくし、
- 3 巻戻レボタンを押し、
- 4 フィルムを少し（巻戻レクラックの幅ぐらいいい）戻し、
- 5 セルフコッキングレバーをチャージします。

この方法を応用すれば再露出も可能ですが、画面と画面の完全な一致は望めません。しかしネオンや花火など再露出による写し込みには利用できます。

フィルムの巻戻し

フィルムカウンターが36になった場合、またはフィルムが巻けなくなったときはフィルムが終りになったわけですから、無理にセルフコッキングレバーを動かさないでフィルムを巻戻します。



まず巻戻しボタンを押し（巻戻しボタンは自動解除のため一度押せばよい）巻戻しクランクを起して矢印の方向に回転するとフィルムはもとのマガジン（パトローネ）に巻戻すことができます。最後に巻戻しクランクが重く感じますが、フィルムがスプールからはずれるときは一度重くなって急に軽くなります。このときがフィルムが全部マガジン（パトローネ）に巻戻されたときです。



次に裏蓋を開き巻戻しクランクを外方に引出しマガジン（パトローネ）を取出します。



フィルムを巻戻しマガジン（パトローネ）をカメラから取り出すときには日蔭で操作してください。

- * フィルムが終りになっているのに無理に巻上げると、パーフォレーションがきれたりして巻戻しができなくなり、暗室内でフィルムを取り出さなければならなくなりますから、最後の無理な巻上げはやめてください。
- * フィルムが終りになってセルフコッキングレバーが途中で止った場合には、セルフコッキングレバーはもとの位置に戻らず、ボディリリースボタンも押せません。この場合には巻戻しボタンを押してからセルフコッキングレバーをストロークいっぱい押すと、もとの位置に戻ります。

マガジンとフィルムのかめ方

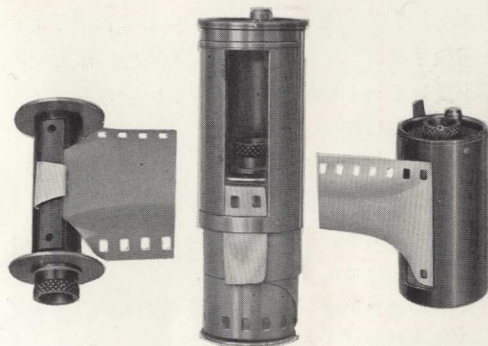


コニカ専用マガジンが発売されております。35mmフィルム36枚撮りが収容できる、堅牢な黒塗り総金属製で永久使用ができ、しかも光線もれ、スリ傷などの故障が絶対になく、フィルムも経済的ですから、ぜひご使用をおすすめいたします。

- * マガジンは外筒、内筒およびスプールの三つの部分よりなっております。
- * 外筒のばねを押し上げると安全装置がはずれますから、そのまま内筒を右回りに止まるまで回すと外筒と内筒のフィルム引出口が合います。
- * 次にスプールの頭部をつまんで引出すと、内筒とスプールが外筒からはずれます。

フィルムのかめ方

- 1 スプールの頭部を手前にして左手に持ち、フィルムを右手に持って乳割面を下側にして、スプールの溝に先端をさし込み端を折返しておきます。
- 2 乳割面を内側にしてスプールにフィルムを巻きつけます。巻きつけ終わったフィルムの端を1cm位のところから外側に折っておきます。
- 3 フィルムの巻きつけがゆるまないように注意しながらスプールの頭部の方から内筒にはめ込みます。



- 4 次にフィルム引出口を合わせて外筒にはめ、スプールの頭部をつまんで左に回すとフィルム引出口にフィルムの先端が出ます。
- 5 フィルムの先端をつまんで10cmくらい引出し、内筒を左に回すとパチンと音がして安全装置がかかります。

- * フィルムの取扱いはセーフライトの下か暗黒下で行ってください。
- * フィルムをスプールに巻きつける際、乳割面に指紋をつけぬようにしてください。
- * フィルムはスプールに固めに巻きつけて行きます。巻き終わってから締め直すとフィルムにきずが入ります。

カメラの手入れ

屋外で使ったあとのカメラには埃が付いているもので、ことに雨天の日や海辺などで使用したあとと放置すると、カメラに付着した水分や塩分の影響を受けてシミや錆が生じたり、レンズのヤケや腐食の原因になります。

ボディは刷毛で埃を払ったのち柔かい布かセーム皮などで拭き、ボディの内部も刷毛で埃を払って常にきれいにしておきます。

レンズとファインダー窓は羽毛か柔かい刷毛で埃を払う程度にとどめておくようにし、指紋など付けたときには、洗い晒した清潔な木綿布にごく少量のアルコール（エーテルを混ぜるとよい）を付けて軽く拭き取ります。多量のアルコールを用いると内部機構に浸透して故障の原因になります。

シャッターに油は禁物です。絶対に注油などしないでください。

距離計部後面の丸ボタンは——距離計左右像調整ねじ部のカバーになっております。一般には取はずししないようにお願いします。

ファインダー窓の部分は**プリズム面**——光学ガラスでできたプリズム面のためレンズ同様たいせつに取扱い、指紋などつけぬよう注意してください。

被写界深度表

ヘキサノン F/2 48mm 被写界深度表(フィート)

収りF	3.0	3.5	4	5	6	8	10	15	25	50	∞	
2	2'11" 3' 1"	3' 5" 3' 7"	3'11" 4' 2"	4'10" 5' 3"	5' 9" 6' 4"	7' 6" 8' 7"	9' 3" 10'11"	13' 4" 17' 2"	20' 8" 31' 7"	35' 2" 86' 9"	117' 0" ∞	
2.8	2'11" 3' 1"	3' 5" 3' 8"	3'10" 4' 2"	4' 9" 5' 4"	5' 8" 6' 5"	7' 4" 8'10"	9' 0" 11' 3"	12'10" 18' 2"	19' 4" 35' 4"	31' 6" 123' 0"	83'10" ∞	
4	2'11" 3' 2"	3' 4" 3' 8"	3'10" 4' 3"	4' 8" 5' 5"	5' 6" 6' 7"	7' 1" 8' 7"	8' 8" 11'11"	12' 1" 19'11"	17' 8" 43' 1"	27' 2" 133' 0"	58'10" ∞	
5.6	2'10" 3' 3"	3' 3" 3' 9"	3' 8" 4' 4"	4' 5" 5' 7"	5' 4" 6'11"	6'10" 8' 9"	8' 2" 12'11"	11' 2" 23' 0"	15'10" 69' 9"	23' 0" ∞	42' 1" ∞	
8	2' 9" 3' 3"	3' 2" 3'10"	3' 7" 4' 7"	4' 4" 5'11"	5' 1" 7' 5"	6' 5" 10' 9"	7' 7" 14'10"	10' 1" 29'10"	13' 8" 159' 0"	18' 9" ∞	29' 7" ∞	
11	2' 8" 3' 5"	3' 1" 4' 1"	3' 6" 4' 9"	4' 2" 6' 4"	4'10" 8' 1"	6' 0" 12' 4"	7' 0" 18' 2"	9' 0" 47'10"	11' 9" ∞	15' 2" ∞	21' 7" ∞	
16	2' 7" 3'11"	2'11" 4'10"	3' 3" 6' 0"	3' 7" 8' 8"	3'10" 12' 7"	4' 5" 28' 2"	5' 4" 110' 5"	6' 1" ∞	7' 7" ∞	9' 6" ∞	11' 9" ∞	14'11" ∞
22	2' 6" 3'11"	2' 9" 4'10"	3' 1" 6' 0"	3' 7" 8' 8"	4' 0" 12' 7"	4' 9" 28' 2"	5' 5" 110' 5"	6' 6" ∞	7' 9" ∞	9' 1" ∞	10'11" ∞	

ヘキサノン F/2 48mm 被写界深度表(メートル)

収りF	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
2	0.89 0.92	0.98 1.03	1.17 1.24	1.45 1.56	1.91 2.11	2.78 3.27	4.41 5.79	7.85 13.82	35.74 ∞
2.8	0.88 0.93	0.97 1.04	1.16 1.25	1.43 1.59	1.87 2.16	2.71 3.28	4.21 6.17	7.23 16.31	25.56 ∞
4	0.87 0.94	0.96 1.05	1.14 1.28	1.40 1.62	1.82 2.23	2.60 3.57	3.94 6.82	6.48 22.40	17.92 ∞
5.6	0.86 0.96	0.94 1.07	1.11 1.31	1.36 1.68	1.75 2.34	2.46 3.86	3.64 8.08	5.67 44.77	12.83 ∞
8	0.84 0.98	0.92 1.11	1.08 1.36	1.31 1.77	1.67 2.52	2.29 4.41	3.26 11.02	4.79 ∞	9.91 ∞
11	0.81 1.02	0.89 1.15	1.04 1.43	1.25 1.89	1.57 2.80	2.10 5.37	2.89 20.31	4.01 ∞	6.58 ∞
16	0.78 1.08	0.85 1.23	0.98 1.57	1.17 2.15	1.43 3.43	1.86 8.46	2.43 ∞	3.17 ∞	4.55 ∞
22	0.74 1.17	0.81 1.35	0.92 1.78	1.08 2.58	1.30 4.73	1.63 29.21	2.05 ∞	2.54 ∞	3.34 ∞



小西六写真工業株式会社

東京都中央区日本橋室町3-1
電話東京(24) 4181(代), 7261(代)